

# ブドウ黒とう病対策について

令和5年6月22日

農業技術課

梅雨期に入り降雨日や降水量が多くなっており、シャインマスカットを中心に「黒とう病」の発生が多くなっています。本病は、この時期の雨水により感染が広がり、多発すると収量に影響することもあります。

関東甲信地方の梅雨明けは平年で7月19日頃であり、今後も雨が続くと本病の発生が更に拡大することが懸念されます。

自園の発生状況を確認し以下の対策を徹底して下さい。

## <耕種的防除>

- ①定期的に園内を見回り、病斑が見られる葉や新梢、果実、巻きひげは見つけ次第取り除き、園外に持ち出し処分する。
- ②本病は柔らかい部位に多く発生するため、副梢や新梢先端、果房等の発生が多い。  
また、発病している部位の周囲に感染が広がっていることが多いため、発生部位の周辺は十分に観察する。
- ③カサかけや袋かけは房への本病の感染を防ぐ効果が高いため、なるべく早くカサかけや袋かけを行う。
- ④摘粒作業が長引く園では、先に口ウ引きのカサをかけて摘粒作業を行う。  
※カサかけは本病のほか、「晩腐病」の感染を防ぐ効果も高い。

## <薬剤防除 共通事項>

- ①病原菌は降雨により伝染する。このため、散布後に降雨が予想される場合でも、散布を延期せず、降雨前に散布する。（降雨後では既に感染してしまう恐れがある。）
- ②薬剤散布を行う際は、散布ムラのないよう十分量を丁寧に散布する。特に園の周囲やSSの死角など薬剤がかかりにくい場所は補助散布を行う。
- ③薬液がよく付着するよう、新梢管理を徹底し棚面を明るく風通しの良い状態に保つ。

## <薬剤防除 ステージ別>

### ①袋かけが終了している園

- ・ フルーツセイバー1,500倍（使用回数3回、収穫7日前まで）またはオンリーワンフロアブル2,000倍（使用回数3回、収穫前日まで）を棚下から散布する。
- ・ 発生がない場合は、防除暦に準じ、袋かけ後なるべく早く ICボルドー66D 40倍を散布する。

### ②摘粒作業中の園

- ・ フルーツセイバー1,500倍（使用回数3回、収穫7日前まで）またはオンリーワンフロアブル2,000倍（使用回数3回、収穫前日まで）を棚下から散布する。
- ・ カサかけや袋かけは黒とう病を防ぐ効果が高いため、薬剤散布後はなるべく早くカサや袋をかける。先にロウ引きカサがかけてある園においても、感染が心配される場合は、カサ下から散布する。

※フルーツセイバー、オンリーワンフロアブルは予防が主体の薬剤であるため、散布前に既に感染している場合は薬剤散布後も発病が続く恐れがある。

このような場合には、定期的に園内を観察し、発病部位は見つけ次第除去するとともに、必要に応じ追加防除を行う。

※この時期に降雨の多い年は、黒とう病だけでなく晩腐病やうどんこ病の発生も多くなる。フルーツセイバー、オンリーワンフロアブルはうどんこ病には一定の効果がある。

※果粒が大きい場合、薬剤による汚染が発生する恐れがあるため、果粒の生育状況に注意し、他の薬剤との混用は避ける。